



将来、超高齢・人口減少社会になっても、一人ひとりに役割と居場所があり、幸せが実感できるまちを目指すための道しるべである3つのフラッグが「つながり」「あんしん」「みどり」です。

つながり 一人ひとりに役割と居場所があるまち

あんしん 助けがなかったら生きていけない人は全力で守る

みどり ふるさと(生命ある空間)の風景を子どもたちに

今回は **つながり** についてご紹介します。

問 行政課 ☎56-0605 記事ID 7928

[HPを見る](#)

原爆写真パネル展

広島・長崎の原爆被害の状況等について、写真など分かりやすく説明した原爆写真パネル展を開催します。広島平和記念資料館からお借りしたものを展示します。市民からお借りした資料も展示します。

時 8月6日(火)～11日(日・祝)
9:00～17:00

※6日は13:00から、11日は16:00まで

場 文化の家1階 展示室

運営ボランティア募集中!!

期間中、受付などのお手伝いをしていただける人を募集しています。

語り部による戦争を語り継ぐ集い

戦争の悲惨さや平和の大切さを後世に伝えるために、戦争を体験した市民やその家族による戦争を語り継ぐ集いを開催します。戦争のない平和な社会を築いていくために、歴史の授業でしか戦争を知らない子ども達にぜひ聞かせてあげてください。

時 8月 9日(金) 13:00～、14:00～
11日(日・祝) 10:00～、11:00～
戦争体験した市民やその家族による講話(各回約45分)

8月11日(日・祝) 13:30～
広島から招いた被爆体験伝承者による講話(約60分)

場 文化の家1階 光のホール



まちづくりの達人に聞く

「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？

ここでは、主体的に活動している市民に情報課職員が取材したことを紹介します。

～平和事業推進委員、語り部のみなさん～

平和事業推進委員会とは

本市では、2014年9月30日に「非核平和都市宣言」を行いました。この宣言に基づき、原爆写真パネル展や語り部による戦争を語り継ぐ集いなど、さまざまな平和事業に取り組んでいます。その平和事業の活動について主体となり取り組んでいるのが、今回紹介する「平和事業推進委員会」です。



平和事業推進委員会
委員長 吉田 真砂 さん

たくさんの人と出会う。
新しいことを知る。
自分の想いを伝える。
この委員会に参加したからこそできたことです。

平和事業の活動に参加したきっかけ

誘いを受けて参加しました。生まれも育ちも長久手なのですが、他市で働いていたこともあり、長久手のことをあまり知りませんでした。これは長久手を知り、生まれ育ったまちに恩返しできるいい機会だと考え、参加を決めました。

活動でのやりがいや大変だったこと

本委員会のみなさんは、それぞれとても強い想いをもっていらつしやるので、会議の際には多くの意見、想いが飛び交い、話し合いがなかなか進まないこともあります。しかし、みなさんの平和を願う想いの強さを再確認できたり、新たな発見ができたりして充実したときを過ごすことができます。

今後の活動

現在は、8月に開催する原爆写真パネル展と語り部による戦争を語り継ぐ集いの準備を進めています。また、新たな語り部を探すなどしていきます。

市民へのメッセージ

平和事業と聞くと、少し特別な感じをもってしまいかもしれません。しかし、平和を願う気持ち、命を大切にすることを決して特別なものではなく、きつとみなさんの心のどこかにもあると思います。

ぜひ、原爆写真パネル展と語り部による戦争を語り継ぐ集いに参加してほしいです。

取材を終えて

「平和を願う気持ちは特別なものじゃない。」この一言がとても印象的でした。
「平和事業」と聞くと、どことなく自分とは縁遠いものを感じてしまいます。しかし、「平和がいいか、戦争をしたいか」と聞かれれば迷わず、「平和がいい」と答えます。みなさんも同じなのではないでしょうか。誰だって平和がいいに決まっています。そして、その気持ちが寄り集まって、行動することで世界を平和に導くのだと思います。まずは簡単なところから、例えば語り部さんのお話を聴くだけでも立派な平和事業への参加です。ぜひ参加してみてください。

「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？
ここでは、主体的に活動している市民に情報課職員が取材したことを紹介します。

まちづくりの達人に聞く ～子づれ備災クラブ、サロン参加者のみなさん～



情報課職員(以下情)：今日はよろしくお願ひします。
古賀：よろしくお願ひします。

情：早速ですが、子づれ備災クラブについて教えてください。

古賀：子づれ備災クラブは今年の4月に設立し、5月から月に1回防災サロンを行っています。サロンでは、防災、特に子づれ防災に関する色々な課題について話し合っています。

情：自分たちが防災について意見交換をしたいのはもちろんですが、ちょっとだけ防災に興味がある…なんて人の背中を押せたらなという気持ちでやっています。なので飛び入り参加、大歓迎です。

情：なるほど。飛び入り参加可能なのはいいですね。特にママ・パパだとお子さんの体調とかで行けなく なっちゃうことかありますもんね…。

古賀：今年の2月に防災に関する講座を聴いたのがきっかけです。講座を聴いて「これはまずいぞ。」と。

防災ってどうしても成人男性が基準になりがちなんですよ。例えば、これは他の地域の女性に聞いた話なんですけど…。避難所で男性の係の人に生活用品を求めたら、1つだけ渡されて「大事に使ってね」と言われたそうなんです。女性からしたら「え?!」って感じですよ。1つだけ? 大事になってない?」って。

情：でも、これって仕方ないことなんです。だって、防災を考える場にいる人の多くが成人男性だから。それで、ママとか女性の目線からの防災を考えようと思っただけです。

古賀：確かに、そういう目線からの防災って大切ですね。今、気づかされました。

情：きつとお互いわからないんですよ。女性は生活に必要な物資としてあると思ってる。でも、男性からしたらそんなに沢山必要なんて思わない。そうなんです。みんな、行政が全部なんとかしてくれと思ってる。「長久手市はお金持ちでしょ?」って。でも、6万人いたら、6万通りの必要なものがあるんですよ。



子づれ備災クラブ
代表 古賀 めぐみ さん

ないですね。絶対安全なんてないわけですから。最後になります。市民へのメッセージをいただいてもよろしいでしょうか。

古賀：行政ができることって限られています。自分が必要なのは自分で用意しておくしかないんです。もしかしたら、物資としてもらえるかもしれない。でも、もらえなかったら困る。それなら、備えておきましょう。それが備災です。大切なのは「もの」の「気持ち」つながり「の」備えです。今の備えが、いつかあなたのお子さんの命を救うかもしれない。「役に立つ日」が必ず来る。そんな気持ちで防災に取り組ましましょう。

あるんです。それを全て市で用意するのは無理がありますよね。だったら、自分たちが必要なものは、自分たちで備えておくしかないんです。

情：やっぱり、生活に必要なものはきちんと備えておかないといけないですね。

古賀：でも、ものだけじゃ足りないですよ。

情：ものだけじゃだめなんですか?!

古賀：ものだけじゃだめなんです。防災には「もの」の備えが大切なんです。1つ目は「もの」。これはもう言わずもがなですね。2つ目は「気持ち」。やっぱり「災害はいつ起こるかかわからない」と思って生活するのは、いいかげんでは、大きく違うと思います。3つ目は「つながり」です。これは一番難しいけど大切です。「つながり」ですか。市長もよく言っています。「つながり」ですが、なかなか難しいですね。「つながり」を備えるって。

古賀：例えば、災害時。避難所に行きたいけど道路が荒れ果てて行けない。そうだったらどうしますか?!

情：自宅にどうするのでしょうか…。

古賀：そんなことはないですよ。例えば、近くで

一番丈夫そうな家で数家族が集まって、しばらく共同生活をするのもできます。大人が多ければ役割分担ができる。食事を準備する人、情報を収集する人、子どもの面倒を見る人って。一人で全てこなすのは大変ですけど、みんなで協力すれば負担も減るだろうし。

情：確かに、その手がありましたか。でも、私は今はまだできないですね。「つながり」が備えられてない証拠です。古賀さんはできますか?!

古賀：私はできます。会えば挨拶をするし、子どもを通して知り合う人も沢山います。「つながり」を備えるためには、地域のイベントに参加するのも1つの方法です。そこで顔見知りになれば、挨拶もしやすくなりますし、「この前はどこうも…」って会話も広がりますから。顔見知りが増えると、生活上の安心感もグッと上がります。

情：古賀さん、すごいです。今日は驚かされることばかりでした。生活用品の話も共同生活の話も、私には思いもよらなかったもので…。でも考え出すと防災って終わりが

つながり あんしん みどり

将来、超高齢・人口減少社会になっても、一人ひとりに役割と居場所があり、幸せが実感できるまちを目指すための道しるべである3つのフラッグが「つながり」「あんしん」「みどり」です。

つながり 一人ひとりに役割と居場所があるまち

あんしん 助けがなかったら生きていけない人は全力で守る

みどり ふるさと(生命ある空間)の風景を子どもたちに

今回は **あんしん** についてご紹介します。

次回以降の防災サロンのご案内

時 12月23日(月)、1月27日(月)
2月24日(月・振休)、3月30日(月)
10:00~11:00

場 市役所北庁舎2階 和風会議室

問 090-9336-0654(古賀)

他 1回だけの参加も可。

3月30日(月)は被災時に役立つパッキングの実践と試食をします。

安心安全課からのひびくと

子づれ備災クラブのパワフルさに圧倒されながら、この半年、活動のお手伝いをさせていただきました。その中で、出会えたさまざまな気づきを本市の防災行政にどのようにフィードバックできるのか検討していきたいと思ひます。
家庭での備え、地域での備え、そんな備災が災害時には必ず役に立ちます。みなさんもできる範囲から備災を始めましょう。

わたしのまちづくり



「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？
ここでは、主体的に活動している市民に情報課職員が取材したことを紹介します。



今回は、リニモテラススクリーンアップ作戦に参加されたのをきっかけに、市内のさまざまなイベントに参加している中村さんにお話を伺いました。



なかむら まき
中村 麻希 さん

リニモテラススクリーンアップ作戦とは

リニモテラス公益施設(仮称)に愛着を持ってもらうため、リニモテラス運営協議会のメンバーが中心になってリニモ長久手古戦場駅北側の建設予定地や隣接する長久手中央2号公園で毎月第1土曜日清掃活動を行っていました。

情報課職員(以下情)：今日はよろしくお願ひします。

中村：よろしくお願ひします。

情：早速ですがリニモテラススクリーンアップ作戦に参加したきっかけを教えてください。

中村：昨年の8月にリニモ長久手古戦場駅北側にある長久手中央2号公園で開催された「ながくて夏祭りinリニモテラス」で観光交流協会の人に声をかけていただいたのがきっかけです。同年の4月に長久手市に引越してきたんですが、前に住んでいた地域でも清掃活動に参加していたので、似たようなイベントがこっちでもないかなって、ちょっと探していたんです。

情：では、リニモテラススクリーンアップ作戦はびったりのイベントだったんですね。イベントに参加してみてもいいですか？

中村：とてもよかったです。つながりが増えました。

情：知り合いはたくさん増えましたか？

中村：たくさん増えました。子育てはそれだけつながりの輪が広がります。イメージがあると思うんですけど、実は狭い範囲の中での話なんです。知り合うのは、同じ歳くらいの子どもがいるママやパパたちに

なりがちで。だからいろいろな人たちと関われるのが新鮮でした。そこで知り合った人が新しいイベントに誘ってくれて、そこでまた新たなつながりが生まれて。最近ではどのイベントに行っても知り合いに会いますね。

情：引越してきて1年で、どのイベントに行っても知り合いがいるってすごいですね。

中村：それに、子どもも一緒に参加してるんですけど、子どもたちも楽しみながら地域のために何かできてるっていい感じがしますね。ちょっとした地域貢献でも社会とつながってるなあって実感できます。「まちづくり」に参加できてるなって。

情：社会とのつながりって、つながりって聞くと「人と人」って思いがちですけど、社会とのつながりって大切ですよ。社会とつながってるって、そこに自分の居場所があるってことですよ。それでは、市民のみなさんへメッセージをお願いします。

中村：「まちづくり」とか「社会貢献」って聞くとかちょっとハードルが高く感じてしまうかもしれませんが、実はそんなことな

くて、長久手市って本当にイベントが充実してるんですよ。四季を感じるイベントも多いし、子どもも大人も楽しめるイベントが本当にたくさんあります。そういうのに参加すると、みんなのつながりの輪がどんどん広がっていく。それも「まちづくり」の二環なのかなって思います。だから、楽しそうだな、興味あるなってイベントがあったらぜひ積極的に参加してみてください。普段あまり関わることのない世代の人と出会うきっかけにもなって面白いですよ。



わたしのまちづくり



「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？
ここでは、主体的に活動している市民に情報課職員が取材したことを紹介します。



ういういの会

左から すぎ はら 杉原 こう じ 廣二 さん

代表 まつ もと 松本 こ まり子 さん

きた がわ よし かず 北川 芳一 さん

今回は、ういういの会さんにお話を伺いました。

情報課職員(以下「情」)：今日はよろしくお願
いします。早速ですが、ういういの会について
教えてください。

ういういの会(以下「う」)：私たちは「つながる
う、みんなでーめぞう、暮らしやすいまち
を」を合言葉に、2012年10月から活
動しています。主な活動は、市民活動のネッ
トワークづくりのための「つながりマップ」
づくり、さまざまな分野で活動している人
を講師としてお呼びする「まちセンカフェ」
の企画運営、ほかに市民活動交流会や
わいがや広場などを行っています。

情：「つながり」がキーワードですね。

う：そうですね。長久手市って多くの人が、
さまざまな分野で活動してるんですけど、
ネットワークはできあがってないんです。
点で活動してるイメージですね。その点と
点を「つながり」線にしたいという想いで活動
をしています。

情：なるほど。それにその先の目標などはあり
ますか？

う：そうですね。長久手市って多くの人が、
さまざまな分野で活動してるんですけど、
ネットワークはできあがってないんです。
点で活動してるイメージですね。その点と
点を「つながり」線にしたいという想いで活動
をしています。

情：「コラボレーション」を起したいです。Aと
いう活動をしている団体とBという活
動をしている団体が出会ったことで、新
しいこという活動が始まるみたいな。そ
ういう強いつながりを生みたいんです。

情：化学反応みたいなイメージですかね。
う：そうですね。目指しているのは災害時でも地
域の人たちだけで何とか乗り切れるくら
いの強いつながりです。最初からはハー
ドが高くてですけど、うういかな。

情：そのためには多くの人に市民活動に参加
していただく必要がありますね。理想ではあ
るけど、なかなか難しいですわね…。

う：市民活動やまちづくりと聞くと、みなさん
まずは「自分は何ができるのか」を考える
と思うんです。もちろんそれはとても大切
なことなんですけど、でも、少しハードル
が高くてですね。

情：高いですね。私自身、「あなたはまちのた
めに何ができますか」って聞かれたら黙
り込んでしまっ気がします…。

情：それなら、うういのはいい感じがします。

う：それを発信すること市民活動、まちづくり
のひとことなんです。例えば誰かが「〇
〇で困っています」と助けを求める。それに
「私、それできますよー」と手を挙げてくれ
る人が現れる。自分にはできなくても、
できる人を紹介してあげる。そうやって助
け合いの輪をどんどん広げていけば、すべ
く住みやすいまちになります。

情：なるほど。確かに、自分から「〇〇できま
すー」とはなんとなく言いにくかったり、そ
れも自分ができるとして認めることがな
りしますけど、困りごとに対応できるかた
ちであれば言いやすいですね。「あ、私のこの
特技って人の役に立っんだ」って気づかれ
ることもありそうですね。それでは、最後
に市民へのメッセージをお願いします。

う：私たちは「自分たちが住んでいるまちだか
らこそ、楽しく、住みやすいまちにしたい」
という想いで活動しています。でも、決して
難しいこととはしていません。みんながやり
たいことをやる範囲でやっているだけな
んです。だから、難しく考えず、困っている
ことがあったら、大きな声で発信してみ



わいがや広場～リモート編～

市民同士が気軽に語り合い、交流するイベントを
オンラインで行います。

時 8月27日(木) 13:30~15:30

申 杉原にメール(k.sugi@luck.ocn.ne.jp)または
電話(090-4854-1269)で申込

わたしのまちづくり



「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？
ここでは、主体的に活動している市民に情報課職員が取材したことを紹介します。



鈴木 陽大 さん

今回は、10月が「食品ロス月間」であること
ちなみ、食品ロス削減のため、活動を行っている
鈴木陽大さんにお話を伺いました。

情報課職員(以下「情」)：今日はよろしくお願
いします。早速ですが、鈴木さんの活動につ
いて教えてください。

鈴木：昨年、市のサポートの下、食品ロスに関
するイベントを開催しました。食品ロス
とは、まだ食べられるのに捨てられてし
まう食品のことで、世界の食品生産量の
1/3もの量が捨てられてるんです。
その状況を知ってもらい、食品ロスにつ
いて考えてもらいたいという思いから、
イベントを企画して市に持ち込んだん
です。

情：行動力がすごいですね。何がきっかけで食
品ロス問題を意識するようになったん
ですか？

鈴木：2年前の春に海外研修に行っただ
研修の最終日、もっと色々学びたいと
思って急遽10日延長したんです。だから
お金が全然なくて。持ってた数千円も
宿代と交通費にほとんど消えてし
まって、水しか飲めない状態が数日続い
たんですよ。

情：危機的状況じゃないですか。それで、
どうなったんですか？

どうなったんですか？

鈴木：そんな中、日本の文化を伝えたくて路
上で書道パフォーマンスをしてたら、
見知らぬ外国人が「お面白いな。一緒
にご飯食べに行こう。」って声をかけて
くれたんです。それで、飯を「ちうそっし
てもらったんですけど、もうめちゃうく
ちゃ美味しく。食のありがたみを痛
感しました。忘れていた大事なものを
思い出した感じですよ。なのに、日本に
帰ってきたら、大量に食品が捨てられ
てたんです。それまでは何も思わない
どころか、意識したことすらなかった。
このままじゃダメだなって強く思った
んです。

情：そんなにも捨てられてるんですか！？

これって国民一人あたり、毎日お茶碗
1杯分の食品が捨てられてることに
なるんですよ。

鈴木：そんなにも捨てられてるんですか！？
そんなに捨ててる意識はなかったです。
でも、確かに思い返してみると、私も野
菜を腐らせちゃって捨てちゃったこと
結構あります。安いからって買いき
ちゃって…。今日から心を改めて、吟味
してから買うようにします。では、最後
に市民のみなさんにメッセージをお願い
します。

情：なるほど。確かに、そういう状況になら
ないと、ありがたみってなかなか実感
できないですよ。食べたいときに、食
べられるのが当たり前って思っちゃっ
てます。

鈴木：多分みんなそうなんです。僕もそうだっ
たので。日本では、年間600万t、
650万tの食品ロスが出てるんです。

鈴木：どんな食べ物も捨ててしまえば「ごみ」
になってしまいます。そして「ごみ」を
処理するための費用として税金が使わ
れています。処理のために燃料が使わ
れることで温暖化の促進にもつながり
ます。「食品ロス」と言うと、「なんだか
難しそう」「意識高いね」「なんて言わ
れることが多いですが、全然そんなこと
ないです。だってみなさん、毎日食事は
するじゃないですか。もっそれは「食品
ロス問題」に関わっているってことで
す。まちづくり、なんなら世界づくりに

家庭に眠っている食品大募集

家庭で不要な食品があればぜひ寄附
してください。いただいた食品は、「認定
NPO法人セカンドハーベスト名古屋」
を通して生活に困っている人へ無償で配
布します。

受取期間・場所

時 10月27日(火)～11月1日(日)
9:00～17:00

場 福祉の家1階事務室
各共生ステーション

問 市社会福祉協議会 ☎62-4700

寄附いただきたい食品

お米、缶詰、インスタント
食品、各種調味料、乾物、
飲料、お菓子など

※次の食品は受け取り不可
賞味期限が2020年12月5日
以前のもの、開封してあるもの
(お米除く)、アルコール類、ビン
詰め、要冷蔵、要冷凍、生鮮食品

携わってるんです。残さずに食べる。使
い切れる量だけ買う。こんな些細な一
ひとりの行動で、長久手市が、世界がい
い方向に向かうんじゃないでしょうか。

わたしのまちづくり



「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？
ここでは、主体的に活動している市民に情報課職員が取材したことを紹介します。



はやし わかこ
林 稚子 さん

今回は、『ながくて・学び・アイ講座』の講師を経験し、現在ベビータンダンスサークル講師として活動されている林稚子さんにお話を伺いました。

情報課職員(以下「情」)：今日はよろしくお話しします。林さんがながくて・学び・アイ講座の講師に応募したきっかけを教えてください。

林：ながくて・学び・アイ講座には、もともと受講生として参加していたんです。ちょうどその頃、育児のことで悩んでいて…。今思えばすごくいい状態だったと思います。家にこもりきりで、心も身体もロボロボ、笑顔って何だっかって感じ。このままじゃダメだなんてなんとなく思っていたんですけど、外に出る勇気がなくて。そんな時、講座の記事を広報紙で見ました。なるほど。頭では「まっすいな」ってわかっているけど、一歩踏み出すのって勇気がいりますよね。

情：そうですね。でも、ながくて・学び・アイ講座って市民の人がやっているし、回数も3、4回程度と少な目で、ハードルも低かったのだから参加できるかなって、ちょっと勇気を出してみました。

林：参加されたんですね。どうでしたか？
情：めちゃくちゃよかったです。ベビーマッサージの講座だったんですけど、私と似たようなママたちもいて。同じ気持ちのママたちと出会えたことで、「ああ、辛いって私だけじゃなかったんだ。」ってスッと気持ちが楽になって、

林：自然と笑顔になってました。大げさかもしれないですけど、すごく救われたんです。それで、私も誰かの支えになれたらなって講師に応募しました。

情：辛いことって共感してもらえただけで、気持ちが楽になったりしますよね。講師として活動してみてもいいですか？

林：子どもが好きだったので、ベビー整膚とベビータンダンスの講座をやったんですが、すごく楽しかったです。やりがいもとてもありました。教室に入ってくるときのママたちの表情と、帰っていくときの表情が全然違うんです。入ってきた時は、緊張と不安で強張った表情の人も多くて…。「私も前はあんな表情してたんだろうな」って。でも、講座が始まって、徐々に打ち解けてくると笑顔が増えて、帰っていくときに「楽しかったです」なんて嬉しそうに言われると、心の中でガッツポーズしちゃいますね。受講生の人たちの笑顔で私も幸せに思っています。

情：すごく素敵ですね。林さんに救われた人いっぱいいると思います。林さんが笑顔にした人が、また別の誰かを笑顔にして…そうやって笑顔の輪がどんどん広がっていくといいですね。最後に市民のみなさんにメッセージをお願いします。

林：みなさんには趣味がありますか？楽しいなあって思えるものはありますか？ぜひそれをいろんな人たちと共有してください。これもまちづくりの一環です。あの時、講座に参加して、私はほんとに救われました。今元気な人はぜひ講師として、なかちよと辛いなって人は受講生として、ながくて・学び・アイ講座に参加してみてください。その一歩を踏み出すためには、きつと勇気がいりますよね。でも、その先には自分の、そして誰かの笑顔が待っているはずですよ。まずは自分が笑顔になるところから。誰かを笑顔にできたなら、それは立派なまちづくりだと思います。

ながくて・学び・アイ講座とは

講座の企画・運営を公募の講師が行い、講師と受講生がそれぞれの立場で学ぶとともに、講座をとおして市民相互の交流をはかり、生涯学習を推進することを目的とした事業です。

—ながくて・学び・アイ講座の4つのアイ—

- ◆ 自己を見つめる私の **I** (アイ)
- ◆ 学びをとおして発見する目の **Eye** (アイ)
- ◆ いつくしみ 思いやりの心の **愛** (アイ)
- ◆ 出会いの **会い** (アイ)

あなたも「ながくて・学び・アイ講座」に参加しませんか！ 問生涯学習課 ☎56-0627

場 長久手市公民館
申 12月1日(火)9:00～18日(金)生涯学習課窓口またはハガキ(20日消印有効)で申込。ハガキの書き方等詳細はチラシまたは市HPへ。

| 講座名 | 講師 | 日時 | 費用 |
|---|-----------------------------------|--------------------------------|--------|
| 全カメラ対応！ ママのカメラ塾 | デザイナー・ 写真講師 みずたにさとし 水谷 諭 | 2/3、10、17、24(水) 10:00～11:30 | 1,200円 |
| カメラの設定とその使い方を簡潔に学びます。忙しいママへ4回で入門完結！撮影実習(屋外)もある短期上達講座です。★お子さん連れ可 | | | |
| 自分で楽しめる ネイルケアとアート | JNEC ネイリスト ミズマ | 2/10、17、24(水) 10:00～11:30 | 1,500円 |
| ネイルケアを基本から学び、習った技術は自宅で楽しめます。毎日、目にする爪をツヤツヤにしましょう。 | | | |

2021年度 講師募集

- みなさんの得意な分野を生かし、講師として参加してみませんか。
- 対** 教える意欲のある18歳以上の人。24人(24講座)程度募集。
 - 内** 開講期間は6月1日(火)～11月30日(火)。講座は1回90分、4回までとし、開講期間内の同じ曜日、同じ時間とします。
 - 申** 12月14日(月)～1月8日(金)に生涯学習課窓口または郵送(1月6日消印有効)で申込書を提出。
 - 他** 市HPにある募集要項をよく確認のうえご応募ください。

わたしのまちづくり



「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？
ここでは、主体的に活動している市民に情報課職員が取材したことを紹介します。

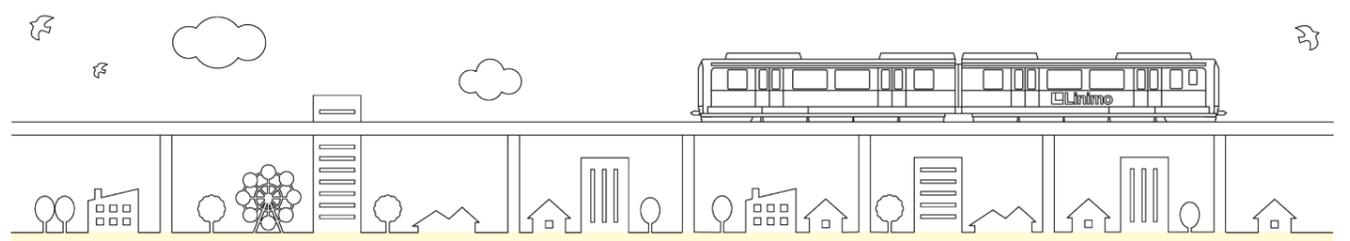


なおい ひろまさ
直井 大将 さん

なかつる かいせい
代表 中鶴 海聖 さん
しんじょう りょうき
新城 稜樹 さん

まゆみ たくや
真弓 拓也 さん
とおやま たかや
遠山 貴也 さん

よこみぞ ともひろ
横溝 智宏 さん



現在、新型コロナウイルスの影響で活動を一時停止しています。今後の予定については下記のメールアドレスにお問い合わせください。またInstagramでも告知します。

●Mail: apuschool.nakatsuru@gmail.com ●Instagram: apu_school

今回は、市内で無料の学習支援を行っている
APU School^{あつぽすくーる}さんにお話を伺いました。

情報課職員(以下「情」)：今日はよろしくお願
いします。早速ですが、APU School
について教えてください。

APU School(以下「As」)：APU School
は主に市内の小、中学生を対象に、無料で
学習支援を行っているボランティア団体で
す。メンバーは6人で、全員が愛知県立大
学の学生です。

情：なるほど。設立のきっかけは何ですか？

As：海外留学をしたんですけど、新型コロナ
の影響で当初の予定より帰国時期が早
まったんです。休学中だったので時間が
結構あって、何か自分にできること
はないかなって考えてたんです。実は僕、
ひとり親家庭で育ったんですけど、そのこ
とで大変な思いをしたこともあって。
今ってコロナのせいで収入が減ってる
人も少なくないじゃないですか。ひとり
親家庭だと、より厳しい状況なんじゃな
いかなって思ったんです。で、「そっだ！
学習支援をしようー!」って。それで、友達
に声を掛けたら「せひやろっ!」って言って

くれて、いろいろな準備を経て活動が始
まりました。

情：新型コロナウィルスが流行してから、
「コロナ鬱」なんてワードも聞くくらい、
ネガティブになりがちな中で、人のた
めに何かしようって思えるの、とって
も素敵ですね。活動されてみてどうで
したか？

As：なかなか参加者が集まらなくて、苦労す
ることも多いですが、その分やりがいも
あります。保護者の方に「ありがどう。
」と言われるとやってよかったなって
思います。でも一番嬉しいのは、生徒さん
が他愛もない話をしてくれた時です。
学校の愚痴とか、この前あったことが
情：どういことですか？詳しく教えてく
ださい！

As：塾は勉強する場所だし、やっぱり成績アッ
プが一番の目標になってしまいますよね。
でも、僕たちは違って。もちろん、成績が
上がってくれたら嬉しいですけど、まず
は勉強の楽しさを知ってほしい。それに
APU Schoolは勉強の場だけじゃ
なくて、家でも学校でもない第二の居場
所になれたらって思ってるんです。だ

から、勉強の相談だけじゃなくて、なん
でも相談してほしい。くだらない話と
かしてくれると「ああ、心開いてくれ
るんだな」って嬉しくなります。

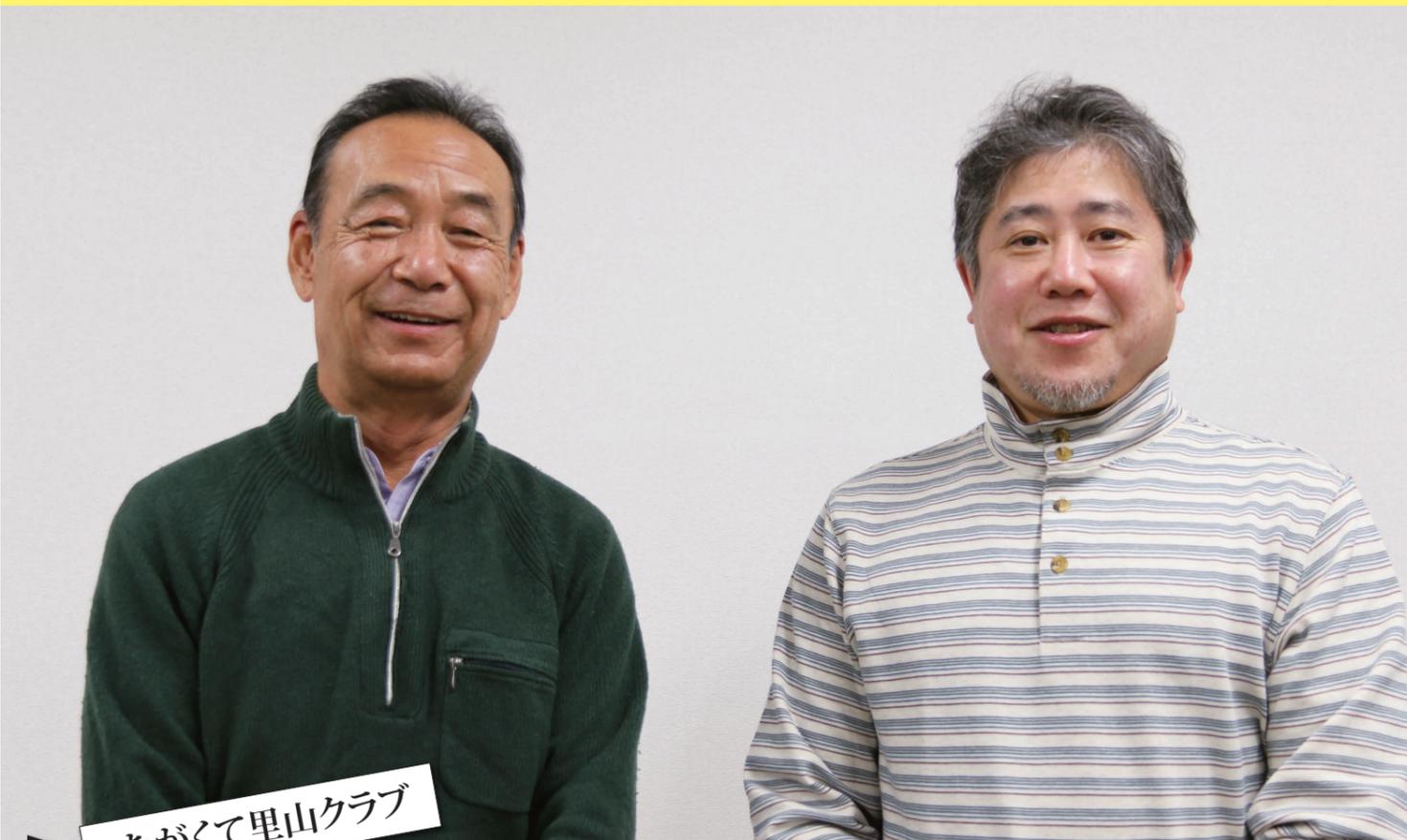
情：そういうことですね。家庭とか学校って
生活の中で占める割合が多い分、そこ
で嫌なことがあるとどんどん落ちちゃ
いますよね。でも、そのほかに居場所が
あるとちょっと心が楽になる気がしま
す。それでは、最後に市民のみなさんに
メッセージをお願いします。

As：「まちづくり」ってなんか難しく聞こえ
ますよね。僕たちも、正直「まちづくり
に携わるぞ!」って気持ちで活動して
いるわけではありません。でも、ちょっ
とでも誰かの支えになりたいなって
思ったら、それはまちづくりにつながる
第一歩なのかなって思います。今回僕
たちはたまたま学習支援って手段でし
たが、何でもいいんです。誰かを想っ
て何かをする。それがまちづくりなん
ではないでしょうか。例えば、ちょっと悩
んでそうなあの子に声をかけてみる。
今すぐにもまちづくりできちゃいま
すね。

わたしのまちづくり



「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？
ここでは、主体的に活動している市民に情報課職員が取材したことを紹介します。



ながくて里山クラブ

やまざき たかし
山崎 隆志 さん

よこ まさおみ
代表 與語 雅臣 さん

情：竹ってなんか風情があるし、うっげいあってもいい気がするのですが…。

里：とんでもない!!竹ってめちゃくちゃ高く

まで育つんです。そうすると伸びすぎた竹にさえぎられて、背の低い木に日光が当たらなくて全然育たないんです。常に葉がついている常緑樹が多過ぎるとよくない理由もこれと同じです。次の木が育たないと、世代交代が起きない。そうすると、生態系も崩れてしまっんです。整備された竹林、常緑樹と落葉樹がバランスよく生えている里山、そんなのを目指して私たちは活動しているわけです。

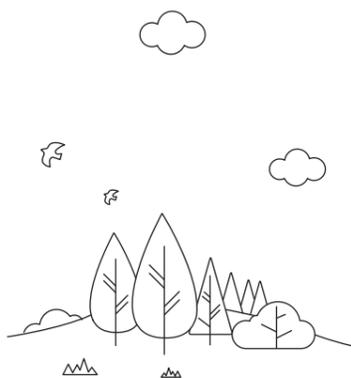
情：なるほど。多ければいいってもんじゃないんですね。活動されてみてどうですか？

里：私たちがやっていることって、すぐに成果が見えるものじゃないので、なかなかもどかしいところもあります。でも、仲間たちと週に一回集まってわいわい活動する。それだけでも十分楽しいです。それに、かつて自分たちが見ていた、本当に美しい長久手の里山をもう一度よみがえらせたいんです。自分の子どもたちの世代、さらにその次の世代の子たちにも見せてあげたい。そんな想いでやっています。

情：未来のために活動されているんですね。この先が楽しみです。今回は知らないうちにほか

里：さっきも言ったみたいに、今の活動はすぐは成果が見えないので、もどかしいところもあります。やっぱり頑張っているとすぐに成果が欲しくなっちゃいますよね。みなさんもそうじゃないですか？でも、すぐに成果を出さなくていいと思うんですよ。ゆっくりでも地道に続けていけば、いつか何かが変わるはずですよ。「里山ひろり」はもちろんですけど、「まちひろり」「も」人生になんかも、そういうもんかなって。焦らずゆっくり、楽しむことを忘れない。そうしたらうまくいく気がします。「まちひろり」にも色々ありますが、例えば「里山ひろり」。みなさんも私たちと一緒に、ゆっくり「まちひろり」を楽しみませんか。それならきっといい未来が待っているんじゃないですかね。

り、でも勉強になりました。それでは、最後に市民のみなさんにメッセージをお願いします。



「里山」が長久手市の新たな魅力となり、市民が『行ってみたい「里山」』と思えるような姿を目標として活動している、ながくて里山クラブさんにお話を伺いました。

情報課職員(以下「情」)：今日はよろしくお願います。早速ですが、ながくて里山クラブについて教えてください。

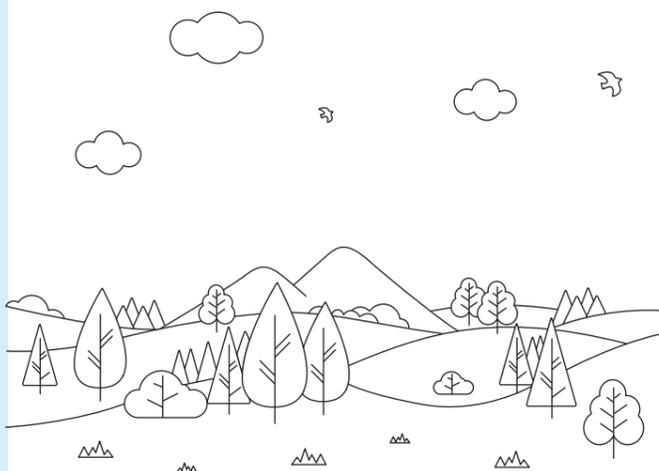
ながくて里山クラブ(以下「里」)：ながくて里山クラブは、毎週火曜日に集まって放置された竹藪や散策路とかの整備なんかをやっています。現在はリタイア世代を中心に19人の会員がいます。

情：なるほど。長久手の東の方って緑が多くてきれいですもんね。その緑を整備してくださいってのがみなさんなんですね。

里：うーん。ちょっと違います。みなさんはよく、長久手は自然豊かで緑が多くていいですねっておっしゃるんですけど、実は、長久手の緑の3割が「よくない緑」なんです。

情：え!?「よくない緑」ってなんですか?緑って自然のことですよ。それなら、いいものだし、うっげいあったほうがいいんじゃないですか?

里：それが、そうでもないんですよ。大切なのは「いい緑」がたくさんあることです。整備されていない、例えば伸び切った竹藪とかは「よくない緑」ですよ。



里山講演会 問みどりの推進課 ☎56-0552

テーマは「カブトムシとクワガタムシ」です。愛知県で生息している種類や、里山の植生遷移との関係など、身近に生息しているカブトムシとクワガタムシについて詳しく学ぶことができます。

時 2月21日(日) 10:00~12:00

場 市役所西庁舎 研修室

内 講師：北岡明彦さん
(自然観察指導員、とよた森林学校主任講師)

対 小学校4年生以上 30人(先着)

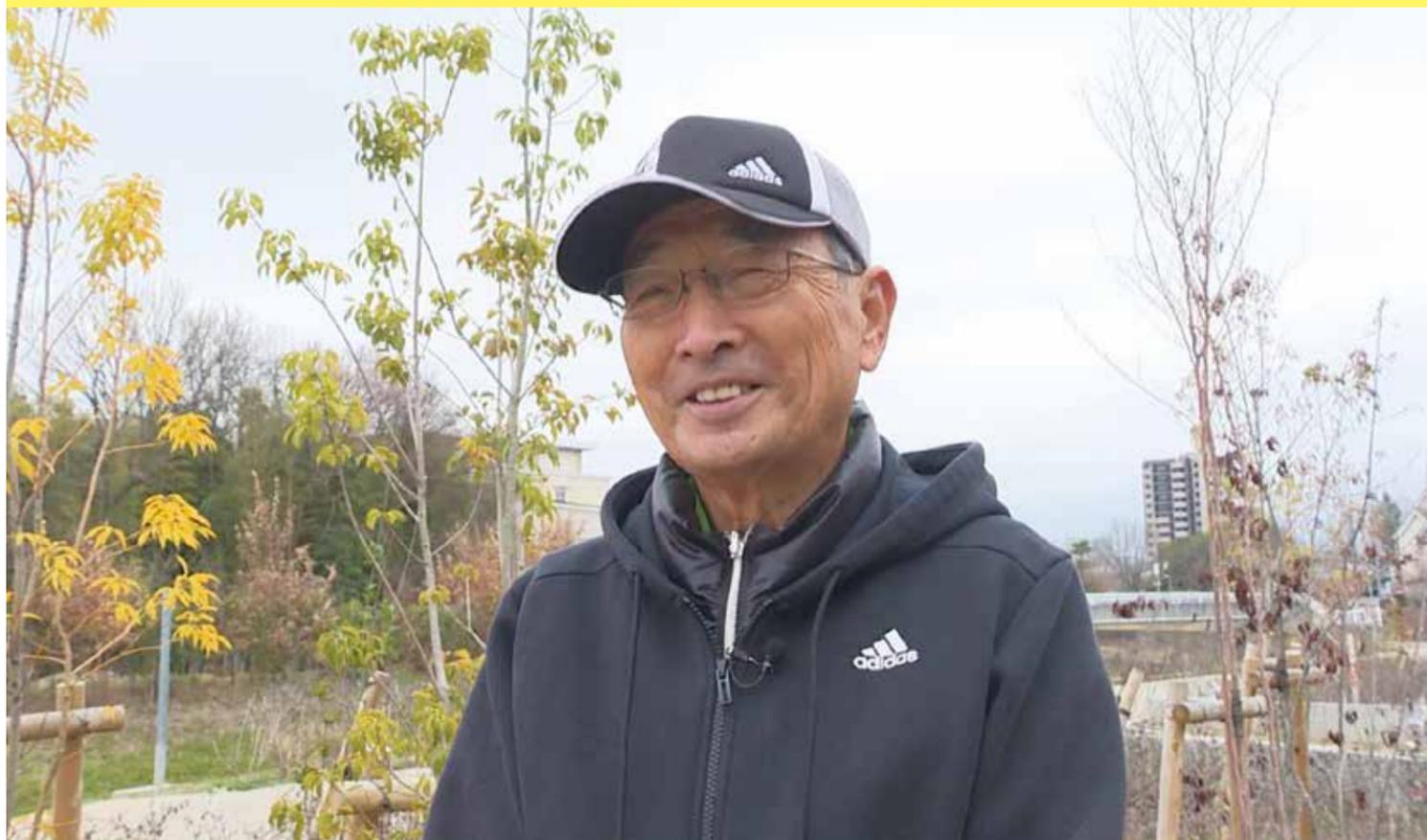
申 2月1日(月)~19日(金)にみどりの推進課窓口、電話またはメールで申込

他 協力：ながくて里山クラブ

わたしのまちづくり



「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？
ここでは、主体的に活動している市民に情報課職員が取材したことを紹介します。



かじ た けん ぞう
梶田 健三 さん

今回は市内を歩き回り、至るところで見つけた昆虫や野鳥、植物等の写真を撮っている梶田健三さんにお話を伺いました。

情報課職員(以下「情」)：今日はよろしくお願ひします。早速ですが、梶田さんがまち歩きを始めたきっかけについて教えてください。

梶田：きっかけはほんとに普通なんです。血糖値が高くなっちゃったんで運動しなきゃと思って。歩くのがいいって聞いたんで、まずは散歩してみようかって始めました。で、また別のきっかけで写真を撮ることも好きになって、それが合わさって今の活動になってますね。

情：なるほど。梶田さんは市民記者(※)としても活動されていますよね。散歩中に見つけた長久手の自然の記事を書いてくださったって。記事を読むたびにその知識量に驚かされるのですが、もともと植物とか野鳥昆虫とかに詳しくかったですか？

梶田：全然そんなことないですよ。最初は調べてばかりでした。知れば知るほど散歩の楽しみも増えるんです。「珍しい鳥いないかな」「もうすぐあの花が咲く頃だけど、どうだろう」って。それで、長久手の自然にもだいぶ詳しくなりました。

情：私も梶田さんの記事のおかげで、ちょっとずつ長久手の自然に詳しくなってます。

梶田：そうやって言ってもらえるのも続けられる秘訣ですね。散歩中に撮った写真を誰かに見てもらえると思うと散歩に張り合いが出ます。役割ややりがいがないって言うと大げさかもですが、誰かのためになるっていいなっつ。

情：確かに、自分のしたことを誰かに見てもらえる、知ってもらえるっていいですよね。「健康」「知識」「やりがい」。「石」一鳥二鳥か、三鳥三鳥ですね。それに市としても、散歩してもらえるのってすごくありがたいんですよ。「地域の目」が増えれば、犯罪の抑制になりますから。

梶田：それだけじゃなくて、新しい知り合いも増えたんですよ。バードウォッチングをしていると、知らない人がいい観察ポイント教えてくれて。今度は私が花のことを教えて。そんなことを繰り返して、うちについてのか仲良くなりました。あのととき散歩をはじめてよかったなあって思います。得るものがたくさん

ありました。まずは散歩くらいならできかなって軽い気持ちで始めたのがよかったですね。最初から大きな目標を立ててたら途中で挫折しちゃったかもしれないです。

情：たしかに「まずはやってみる」の精神で、簡単なところから挑戦していくのって成功の鍵だったりしますよね。長久手市も「まちづくり、まずは笑顔でこんにちは」というキャッチフレーズもあるくらいですから。それでは、最後に市民のみなさんにメッセージをお願いします。

梶田：この記事を読んで、「散歩がまちづくり！」って思われる人もいると思います。「まちづくりがそんな簡単なわけないだろう」って。確かに、私も「まちづくりに参加するぞ」という思いで、散歩を始めたわけではありません。でも散歩をしているうちに、長久手に愛着がわいて、それをみなさんにお届けしたいなって市民記者をやって。趣味のつもりが、いつのまにか、まちづくりに参加してました。そういう参加の仕方もありなんじゃないかなって思います。例えば、私は市民記者として市の自然を

※1…長久手市の魅力や課題など、日頃まちの中で、見たり聞いたり感じたりしたことを記事にし、それを市民記者ブログへ投稿する制度です。



市民記者ブログはこちら

梶田さんをはじめ、ほかの市民記者さんの記事も読むことができます。



Weeklyながくてはこちら

「Weeklyながくて」でも梶田さんの活動の様子を取材しています。



わたしのまちづくり



「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？
ここでは、主体的に活動している市民に情報課職員が取材したことを紹介します。



リリモテラス運営協議会会長 やま だ まさ ひろ 山田 将史 さん

今回は、リリモテラス公益施設の運営などについて考えている、リリモテラス運営協議会会長の山田将史さんにお話を伺いました。

情報課職員(以下「情」)：今日はよろしくお願います。早速ですが、リリモテラス運営協議会について教えてください。

山田将史さん(以下「山」)：リリモテラス運営協議会は、リリモテラス公益施設の運営等について考える市民活動団体です。メンバーは、市民はもちろん、市内で活動している各種団体の代表の人がいます。「大学連携」「観光交流」「多文化共生」「子育て支援」をはじめとしたさまざまなテーマについて、「新たなつながりをデザインする」ためにどのように運営したらいいのか、どうしたらみなさんに気持ちよく使ってもらえるかなどを考えるため設立されました。

「恩返し」と「恩送り」

情：とても大きな目的ですね。かなり大変なように思いますが、どうして関わろうと思ったのですか。

山：一言でいうと「恩返し」です。子どもの頃から長久手で育ち、大学進学のため愛知県を離れ、全国を転々としながら必死で仕事をして、
とっています。身近にある「小さな幸せ」に気づき、そこに感謝することからまちづくりは始まっています。リリモテラス公益施設は、そんな街中の「小さな幸せ」をたくさん紹介できる場所でありたい！一人ひとりのちよっとした「困りごと」「やってみたいこと」「小さなお役立ち」が長久手で一番あふれる場にした！
まずは何気なくふらっと来てください！それが「新たなつながりをデザインする」の第一歩になりますので、今後さまざまなイベントも実施予定ですので、子育て中の人、学生さんなど、どなたでもぜひお越しください。

とても迷いましたね。しかしながら、ふと、「先人のみなさんからのご恩」が頭によぎったのです。「恩返し」をするチャンスでは？
100年後の子どもたちに「恩送り」するチャンスでは？と。このような葛藤を乗り越え、心の奥底の情動がはたらき、お役目を引き受けることにしました。

情：大きな出来事があった、自分の生き方を考えることがきっかけになったんですね。

山：最近では、今まで以上に身近にある「小さな幸せ」に目が向くようになりました。例えば、道沿いにきれいな花が咲いていたとしましょう。「きれいだね」で終わるのではなく、わざわざ道沿いに花を植えてくれた人の思いやりに気づくことが大切。地域には、こうした目に見えない人の思いがあふれていて、それに気づけば気づくほど、恩返しの気持ち芽生え、自分の考え方や行動が変わると思うんです。

「小さな幸せ」に感謝

情：それでは、最後に市民のみなさんにメッセージをお願いします。

山：イベントを企画したり、ボランティアに参加することだけがまちづくりではない

きました。さらには起業し会社を立ち上げ

ました。しかしリーマンショックにより壊滅的な被害を受けたんです。そこでふと、自分は何のために働いていたのかわかってきたんです。何のために生きているのかわかって、生き方を考え直したんですね。そのときに、なぜか、長久手市で過ごしていたことが目に浮かんできたんです。幼少期に市内に住んでいて、お祭りや地域の集まり等のときに、地域の人がいるいろいろな面を見せてくれたんです。あの当時、地域のみなさま、先人のみなさまに支えられたから今の自分があるんだ、全ての人や出来事の「おかげさま」で自分は生きているって思ったんです。その後長久手市に戻ってきたんですが、「恩返し」と「恩送り」を大切に考え方を180度変えることで、会社経営もプライベートも全てが順調に進むようになりました。そんな中、リリモテラス運営協議会会長の打診があったわけですよ。本音を言いますと最初は断りしよーうと思っていました。自分の会社が忙しいのもありましたが、そもそもリリモテラスってとても大きな取り組みで、誰も正解を知りませんし、反対の声もたくさんありました。火中の栗を拾いにいくようなもの



リリモテラス公益施設はこちら

リリモテラス公益施設に関する最新の情報を掲載しています。



Weeklyながくてはこちら

「Weeklyながくて」でもリリモテラス運営協議会の活動の様子を取材しています。

わたしのまちづくり



「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？
ここでは、主体的に活動している市民に情報課職員が取材したことを紹介します。



長久手市国際交流協会

日丸 美彦さん 浅井 弘子さん 伊藤 雅絵さん 横田 純子さん
池岡 敬三さん 川口 美智子さん 大塚 従子さん

今回は、姉妹都市等との国際交流や外国人支援などについて取り組む、長久手市国際交流協会のみなさんにお話を伺いました。

情報課職員(以下「情」)…今日はよろしくお願ひします。早速ですが、長久手市国際交流協会について教えてください。

長久手市国際交流協会(以下「協会」)…長久手市国際交流協会は、国際交流事業や在住外国人のための日本語教室をはじめとする外国人支援について取り組む市民団体です。本協会の目的に賛同する個人、法人等で構成されます。ベルギー王国ワテロー市と長久手市で姉妹都市提携を結んだことをきっかけとして、27年前に設立されました。

多文化共生

情…市内には、外国から来られた方々がどのくらい住んでいるのですか。

協会…約1,200人です。中国、韓国、ベトナム、フィリピンなどアジアを中心に多くの国々の人がいます。私たちもさまざまな国籍の人とお話ししますが、ある悩みを話されるんです。それは、「〇〇出身の外国人といつまでも見られてしまう」、「〇〇やん」

互いのことを知り、新しいつながりができるかもしれません。「まずは笑顔であいさつ」してみませんか。今後は、リモテラスで子どもから大人まで楽しめる企画を予定しています。さまざまな交流をしながら、お互いが日頃感じていることを気軽に相談できる場づくりを目指していきます。みなさんぜひご参加ください。

「〇〇くん」など、一個人として見てくれない。外国人も、「〇〇人」以前に「〇〇さん」なんですよね。私たちも外国では「日本人」として見られるけど、そこで「〇〇さん」として見てもらえると嬉しいように、外国人も一個人として見て欲しいのです。実は、こうした見方がそが「多文化共生」なんです。一人ひとり育った環境が違うので、考え方や文化が違うのは当たり前ですが、それを共に理解し、相手を一人の個人として見る。そうすることでお互いが単なる他人ではなく、もう少し近い存在となり、まちの仲間となる。その結果、多くの文化が共に生きるまちにつながると思います。まさに「日本人と外国人がともに理解しあい、地域の一員として活躍するまちの実現」が、協会の目的です。また最近では、学齢期の外国人の子どもへの働きかけが、とても大切になってきています。市内に住む外国人のうち20〜40代の若い世代が多く、公立の小中学校に通う外国人の子どもも年々増えています。子ども同士でお互いが理解し、学校生活が楽しく過ごせるよう、実際に学校に行くと、外国人の子どもと

日本人の子どもや先生とのコミュニケーションのサポートをしています。

情…学校で子どもたちのサポートをしているんですね。通訳をしているのですか。

協会…先生が言っていることの通訳ではなく、その子が学校の教室の中で孤立しないようにしています。具体的には、先生が言ったことを「やさしい日本語」で伝えるようにしたり、もし分からないことがあったら、「こつこついうふうに友達に聞いたら教えてくれるよ」って伝えるなど、クラスの子ともたちや先生と、外国人の子どもたちの架け橋となるようにしていますね。ただ、学校の子ともたちは外国人とか関係なく、あいさつなどの言葉をよく掛け合っているのです。打ち解けることが早いように感じますね。

まずは笑顔であいさつ

情…それでは、最後に市民のみなさんにメッセージをお願いします。

協会…学校の子ともたちのように、国籍や言語に関係なく、まずは笑顔であいさつをすることが多文化共生の第一歩だと思います。そこから会話が生まれて、お

外国人児童生徒への日本語学習支援講座

問 国際交流協会 ☎62-5933

支援に役立つ知識や、スキルを身につける講座を開催します。詳細は協会HPへ。

時 8月26日(木) 13:00~16:00

場 福祉の家 集会室

申 8月12日(木)までに協会へ電話、メールまたは協会HPから申込



協会の活動内容に関する最新情報はこちら

会員募集中!! ぜひあなたのやりたい活動を見つけてください。



わたしのまちづくり



「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？
ここでは、主体的に活動している市民を情報課職員が取材して紹介します。



草掛防犯ガード隊

顧問 高木 昇攻 さん

隊長 川本 壽 さん

今回は、地域の子どもの登下校の見守りや防犯パトロールなどについて取り組む、草掛防犯ガード隊さんにお話を伺いました。

情報課職員(以下「情」)：今日はよろしくお願ひします。早速ですが、草掛防犯ガード隊について教えてください。

草掛防犯ガード隊(以下「ガード隊」)：草掛防犯ガード隊は、草掛地域を中心に、毎日の子どもたちの登下校の見守りや防犯パトロール等について取り組む市民団体です。2011年にまちの交通安全と防犯活動を願う地元有志で設立し、今年で設立10周年を迎えました。現在は災害時における地域住民の安否確認の訓練を行うなど、防災活動も積極的に行い、安心・安全なまちの実現に向け日々活動しています。

子どものために

情：設立10周年おめでとうございます。10年間毎日欠かさずに子どもたちの見守り活動などをされるなんて、とても大変なことだと思いますが、なぜそれほどまでに熱心に取り組まれるのでしょうか。

ガード隊：私がまだ企業に勤めていた頃、当時小学生だった私の子どもの同級生が、

登校中に横断歩道を横断していたのですが、その時に自動車との事故に遭ったんです。その子は短い人生となりました。今でも当時の事を鮮明に覚えています。同じ子をもつ親として、とても悲しい事故でした。その後、まちの人口が増え、まちには子どもたちも増えたのですが、愛知万博もあり自動車の交通量が増えていたので、二度とあのような事故を起こしてはならないと思い、地元有志とともに設立しました。

危ないことはしない

情：それでは、最後に市民のみなさんへメッセージをお願いします。

ガード隊：事故に遭うことは、とても悲しいことです。それを防ぐためにも、大人がきちんと子どもたちに危ないことを教える必要があります。そのためには、大人が子どもたちの手本にならないといけない。ただ、残念なことには、先ほど言ったような自転車の走行や、歩きながらスマホを触る、しゃべりながら歩道いっぱいに広がって歩く、中にはスマホを触りながら自転車に乗るなど、危険な行動をしている大人をよく見かけます。そうした行動を見て、子どもたちに、いくら大人が注意をしてもきくと納得しないでしょう。子どもたちに納得してもらうには、

情：そのような悲しい体験が今の活動につながっているのです。

ガード隊：まだ生まれて10年程度の経験しかない子どもたちが、自動車が多く走っているまちの中で毎日登下校をしています。大人はそうした子どもたちをきちんと守ってあげないといけない。地域の大人が日頃から子どもたちの安全を意識しておかないといけないと思います。また、最近は車に限らず、自転車も多く走っています。以前、ヘルメット未着用で左側走行を守っていない自転車が、子どものそばを猛スピードで走行し、子どもたちが怖い思いをし

自主防犯ボランティア募集中

安心安全なまちの実現には、みなさんの力が必要です。自主防犯組織を立ち上げたい人は、安心安全課(☎56-0611)へ相談ください。



Weeklyながくてはこちら

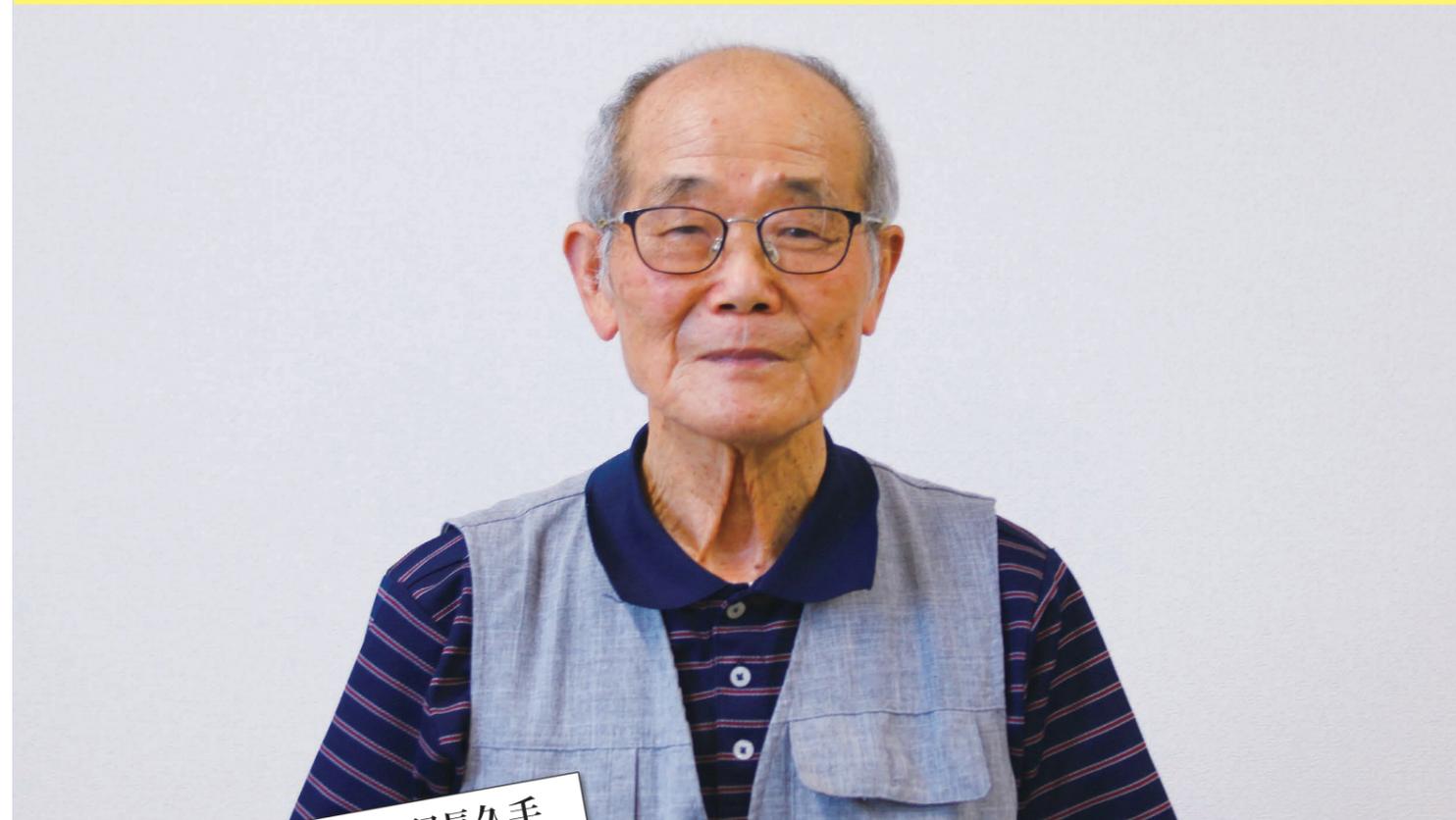
「Weeklyながくて」でも草掛防犯ガード隊の活動の様子を取材しています。



わたしのまちづくり



「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？
ここでは、主体的に活動している市民を情報課職員が取材して紹介します。



要約筆記長久手

代表 福本 喜一 さん

今回は、講演会等内容についての要約筆記の実施や難聴者の支援活動などについて取り組む要約筆記長久手代表の福本喜一さんにお話を伺いました。

情報課職員(以下「情」)：今日はよろしくお願ひします。早速ですが、要約筆記長久手の活動について教えてください。

福本喜一さん(以下「福本」)：要約筆記長久手は、耳の聞こえにハンディがある人(難聴者)が講演会の内容等が理解できるように、講師の話す内容をその場で要約してスクリーンに表示したり、難聴者の理解啓発等について取り組む市民団体です。本市初の要約筆記活動団体として約8年前に市民数人で立ち上げ、現在は6人で活動しています。

ノートテイク

情：本市初の要約筆記活動団体を立ち上げるなんて、とても苦労されたと思いますが、なぜ立ち上げようと思ったのですか。

福本：一言で言うと、私自身がいろんなことに興味があったんです。例えば、新聞に掲載されていたことをやってみたり、地域で面白そうな活動をしている団体があったら参加したりですね。そんな中、多くの人と交流していたのですが、中途難聴者(もともと耳は聞こえていたが、病気や加齢等により聞こえない、または聞こえにくくなった人)が、

一環として、要約筆記長久手では、小・中学校で福祉実践教室を行っています。ここでは、小・中学生が要約筆記を体験するとともに、難聴者本人が難聴について説明しています。参加した子ども達からは、「近所に住む耳の悪いおじいさんやおばあさんが道で困っていたら助けようと思います」等嬉しい感想をいただいています。

小学校での福祉実践教室



情：今後難聴者が増えるかも知れないとのことですが、今後の目標を教えてください。

福本：「ノートテイク」を広げたいですね。ノートテイクとは、相手の言葉が聞き取れなくて困った人がそばにいたら、その場で紙などに相手が言っていることを書いてあげることです。難聴者は車いす利用者のようにぱっと見ただけでは分かりにくく、本人も難聴であることを隠すことが多いのですが、そうした人が気軽に助けてもらえるよう、ノートテイクの担い手を増やすとともに、難聴についても広く知ってもらい、本人が隠す必要がないような共生社会にしたいですね。その

興味を持つ

情：それでは、最後に市民のみなさんにメッセージをお願いします。

12月3日(金)～9日(木)は
障害者週間です。

☎ 福祉課 ☎56-0614

詳細は市HPへ



「Weeklyながくて」でも要約筆記長久手の活動の様子を取材しています。

Weeklyながくては
こちら



わたしのまちづくり



「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？
ここでは、主体的に活動している市民を情報課職員が取材して紹介します。



つどいの場 きららの里

代表 山本 磯子 さん

今回は、市内で人々が気軽に集える場づくりに取り組み、内閣府が紹介しているエイジレス・ライフ実践事例に選ばれて表彰状を授与された、つどいの場きららの里代表の山本磯子さんにお話を伺いました。

情報課職員(以下「情」)：今日はよろしくお願ひします。早速ですが、つどいの場きららの里での活動について教えてください。

山本磯子さん(以下「山本」)：きららの里は、誰でも自由に過ごせる場として古民家を借りて月9回開放しています。毎回15人程度の人が集まって手芸や編み物を教え合ったり、囲碁を楽しんだりして、集まった人たちが家族のように過ごしています。昼食は自宅の畑で採れた野菜などを使ってみなさんに振る舞っています。

人とつながり、楽しみを共有する

情：古民家を自身で借りてまで集いの場を立ち上げようと思われたのはなぜですか。

山本：退職後に始めた高齢者対象の食事会のボランティア活動をやる中で、困り事や寂しさを抱えて生活している高齢者がいらっしやることを知り、高齢者同士が助け合っつて、つながることができる社会を作りたいと、

活動につながっています。人とのつながりや絆作りは、そんなに大げさに考えるものではありません。やれるときにやってみる、深く考えずできることからやってみると、それをきっかけにつながりやが広がっていくこともあります。まずは自分の好きなことから、つながりづくりの一步を踏み出してみませんか。

若い人が先生になり、高齢者が生徒になります。違う話になると今度は立場が逆になります。お互いが好きなことや特技で活躍できるこの場所を提供し続けていきたいと思えます。また、いつか自分が誰かを支える側ではなく、誰かに支えられる側になったときに、人とつながることができるとこの集いの場で、みなさんと一緒に会話や食事をするのが夢なので、私の後継者を育てたいと思っています。私が人から教えてもらったことを次の人に渡して、その人がまた次の人に渡して、人とのつながりを循環させていけたらいいですね。

好きなことをする

情：それでは、最後に市民のみなさんにメッセージをお願いします。

山本：自分の好きなことや特技をほんの少しでもいいのでアピールしてみてください。そうすると共感してくれる人が少しずつ集まってつながっていきます。自分が楽しくないことや一人だけでやっていることは長続きしません。私は料理が好きでしたから、高齢者対象の食事会のボランティア活動に参加して、そこから今の

↓思ったのがきっかけです。そこで、交通手段がない人でも気軽に歩いて行ける場所に集いの場を作りたいと思い、自宅の近くにある使われていない古民家を借りて活動を始めました。

情：自家製の野菜で食事を振る舞っているということですが、食事にそこまで力を入れてるのはなぜですか？

山本：私は高齢者対象の食事会のボランティアを通して食事の大切さを知りました。きららの里では集まった人たちが、その日1日は家族として過ごします。その生活の中でみなさんと食事を作り、大勢で食事をすることで楽しみを共有し、人とのつながりの輪ができていくのだと思います。一人での食事は味気ないですが、大勢での食事は、みなさんの笑顔が最後の味付けになります。家で一人で寂しい思いをしながら食事をしている人はぜひ一度足を運んでいただき、食事の楽しさとおいしさを知ってほしいです。

情：今後の目標を教えてください。

山本：この集いの場をなくさないように大事にしていきたいです。ここでは、子どもから高齢者までさまざまな人が集まります。例えば、スマートフォンの話になると

2月の活動紹介

オレンジークーテカフェ(きららの里)

時 2月27日(日) 11:00~

場 きららの里(岩作中根57-1)

申 きららの里(山本:090-1230-4684)に電話で申込。

他 その他のオレンジークーテカフェについてはP.6へ。

「Weeklyながくて」でもつどいの場 きららの里の活動の様子を取材しています。

Weeklyながくては
こちら



わたしのまちづくり



「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？
ここでは、主体的に活動している市民を情報課職員が取材して紹介します。



文化の家創造スタッフ

こばやし だい ち
小林 大地 さん

今回は、文化の家で創造スタッフとして、2022年3月まで8年間活動した市内在住の小林大地さんにお話を伺いました。

情報課職員(以下「情」)：今日はよろしくお願ひします。早速ですが、創造スタッフの活動について教えてください。

小林大地さん(以下「小林」)：創造スタッフは、現在音楽担当2人、美術担当2人、演劇担当1人、舞踊担当1人の6人で構成されています。主に文化の家が主催する事業の一部を、専門知識や専門技術でサポートしています。活動としては、イベントの分野ごとにそれぞれの創造スタッフが参加して、イベントの企画制作や出演でサポートをします。例えばコンサートがあれば音楽の2人が、館内装飾や舞台美術を作ってほしいと言われたら美術の2人が担当者と会議をして決めていきます。館内装飾の他にも舞台衣装や小道具の制作、創造スタッフたちが自主的にイベントを企画したりもします。

情：小林さんは館内装飾等の美術を担当されているのに、衣装まで作られるのですか？

小林：裁縫が得意なので、おんぱく(※)というイベントでは出演者や自分たちの衣装も作りました。その他にも子ども向けの工作ワークショップを年に1回行ったり、文化の家を飛び出して外でイベントを行ったりしました。

情：8年もの間、創造スタッフとして活躍されましたが、創造スタッフになろうとしたきっかけは何ですか？

じょうに心が動いた人と楽しさを共有できる関係がつくっていきけるのだと、多くの市の事業に携わってきて、そう思いました。

情：それでは、最後に小林さんにとって「まちづくり」とは何ですか？

小林：まちづくりにどう関わっていけるのかなと考えると、人との付き合いを大切にしていることだと思えます。長久手も核家族が増えてきて隣に誰が住んでいるかわからなくなってきた感じがあります。学力や仕事での成績も大切ではありませんが、まず優しい人間関係や心の豊かさを育む時間も人間形成には非常に大切だと思います。その一つとして、例えば絵を見てきれいな色だと感じたり、音楽を聴いて気持ちが良かったり、ダンスや演技を見てかっこいいと思ったり、そんな気持ちを持て時間や芸術を通して提供できればいいと思います。

小林：9年前、創造スタッフになる前はなかなか美術の仕事が増えず、美術と関係のない仕事もしていました。このままでは制作の腕も衰えるし、人脈もなくなってしまう…。もっと美術業界に関わりのある仕事したい！と思ひ、文化の家に自分を売り込みに行きました。そこから創造スタッフになる前の年に、たまたまおんぱくに参加できなくなった美術系創造スタッフの代理でワークショップを行ったことや、他のイベントの子ども向けワークショップをやってほしいという依頼をもらったことをきっかけに文化の家との縁ができ、美術系創造スタッフをもう一人増やしたい、と声をかけていただきました。

情：文化の家に自分を売り込むという行動を起こした結果、今があるんですね。今の活動の中でやりがいを感じたのはどんな時ですか。

小林：作品を見た職員やお客さんから歓声があがったり、驚いてくれたときにやりがいを感しました。お客さんの驚いた顔や喜んだ顔を想像すると、もっと何か仕掛けを作ろうか、もっと盛り込んでみようか、もっと大きくしてみようかと、ついつい凝りすぎてしまいます。見る人の想像を上回るものを作ること、見るだけの美術作品ではなく、みなさんが驚きながらもその場にいる人たちと楽しさを共有してもらえようという、リアルな体

験ができる美術作品を作っていきたいと思っています。

情：今後の目標を教えてください。

小林：3月で創造スタッフは卒業になりましたが、文化の家やイベントで出会った人たちとのつながりがなくなってしまうのはとても寂しいので、何年かに1回とか、おんぱくとか、文化の家のイベントにまた携わらせていただけたらいいなと思っています。今年度は展示活動やイベントは予定していませんが、来年度から個展などの計画を立て、またみなさんに楽しんでもらえる日が来ることを願っています。

情：市民のみなさんにメッセージをお願いします。

小林：作品はいつも自分のために作っていますが、他の人がその作品を見て魅力を感じて声をかけてくださり、作品を通していつの間にかた



小林さんの作品

くさんの人とのつながりができました。他人ではなく、まず自分がいいと思うものを素直に作り、自分が100%、200%楽しんで満足してこそ、自分と同

※おんぱく…文化の家全館が音楽のテーマパークとなるイベント

【ながくてまち便り】おんぱく



「Weeklyながくて」でも小林さんの活動の様子を取材しています。

Weeklyながくてはこちら



わたしのまちづくり



「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？
ここでは、主体的に活動している市民を情報課職員が取材して紹介します。



日本棋院プロ棋士

はね やすまさ
羽根 泰正 九段

今回は、長久手市民で、市の生涯学習講座である
囲碁講座の講師をして下さっている、日本棋院
プロ棋士の羽根泰正さんにお話を伺いました。

情報課職員(以下「情」)：今日はよろしくお願
いします。早速ですが、生涯学習講座で行って
いる囲碁講座について教えてください。

羽根泰正さん(以下「羽根」)：囲碁講座は、毎年7
月から8月までの間で5回行っています。
普通碁盤は縦と横に19本ずつ線が引かれた
19路盤が正式なものです。これを縦と横
に7本ずつ線が引かれ、最小までしぼった
7路盤や、入門でよく使用する9本ずつ線
が引かれた9路盤を使って、基本のルール
やマナーをわかりやすく説明しています。
子どもから大人まで、一人でも家族でも、
どんな人でも囲碁の楽しさを知ってもらえ
るような講座となっております。

情：どの世代の人でも参加しやすい講座なの
ですね。この講座に携わることになった
きっかけは何ですか。

羽根：生涯学習講座で囲碁講座を開講する時に、
講師をしてもらえないかとお願いされた
のがきっかけでした。それ以来、長久手囲碁

クラブの九星会のみなさんの力も借り

ながら毎年講座を行っています。講座
以外にも西小学校の放課後子ども教室
でも囲碁を教えていて、子どもたちが
楽しそうに囲碁を打っているのを見る
と嬉しくなります。囲碁は、やったこと
がない人から見たら少し特殊なゲーム
に感じるかもしれませんが、この講座
をきっかけに、ぜひ家族で囲碁を覚え
て楽しんでもらいたいと思いながら講
師をしています。

情：講師をしていてどんなことにやりがい
を感じますか。

羽根：それは、以前この講座を受講した人が、
別の場所で継続して囲碁を打っている
ことを知った時で、あの時は嬉しかっ
たです。囲碁は、自転車に乗ることと同
じように、一度覚えるといつまでも
覚えているので、一生楽しむことがで
きます。そのためには、やはり継続して
もらうことが大切ですので、講座を受
講した人が、受講後も継続して囲碁が楽
しめるように場所を増やし、それと合
わせて囲碁ができる人も増やしてい

たいと思っています。

情：それでは、羽根さんから市民のみなさ
んにメッセージをお願いします。

羽根：先ほども話しましたが、囲碁は一度覚
えてしまえば幅広い世代の人で楽しめ
るものです。しかし、囲碁は必ず相手が
必要で、一人で続けていくことは難し
いと思います。そんなとき一番身近な
つながりである家族と囲碁を楽しんで
みてください。楽しいと思うことは継
続することの第一歩です。一番近くに
いる家族と楽しみを共有することで続け
ることができ、楽しいことは人に伝え
たくなります。そうして囲碁を通じて
多くの人とつながりができると思いま
す。まずは家族で囲碁を始めてみませ
んか。



プロ棋士羽根泰正の家族で囲碁講座～入門編～ 問 生涯学習課 ☎61-3411

時 7月26日(火)、27日(水)、8月2日(火)、3日(水)、5日(金)〈全5回〉18:30～20:00

場 文化の家 美術室

内 講師：羽根泰正 九段(日本棋院プロ棋士)

対 市内在住・在学・在勤で3歳以上の人 24人(先着)

※6月14日(火)時点で定員に満たない場合、市外の人でも申込み可。

¥ 《受講料》大人1,500円(全5回分、高校生以下無料)

《教材費》710円(家族で参加の場合:1家族710円)

持 筆記用具

申 6月1日(水)10:00～22日(水)に文化の家窓口(生涯学習課)または
電話で申込。

「Weeklyながくて」でも羽根さん
の活動の様子を取材しています。

Weeklyながくては
こちら

